

日本学術会議社会学委員会・社会理論分科会・日本社会学会
公開シンポジウム

災禍の時代の社会学

2023年10月9日 14:00～17:00 どなたも無料で参加可能です
於・立正大学品川キャンパス9号館9B21教室（東京都品川区大崎4-2-16）

2000年代に入って、私たちは驚くべき災禍をいくつも経験してきました。たとえば、2001年9月11日アメリカ同時多発テロ、2011年3月11日東日本大震災と福島原発事故、2019年末に始まった新型コロナウイルスの感染拡大。さらに、2022年2月、ロシアがウクライナ侵攻を開始しました。このような災禍の時代、私たちはどのように世界に対する信頼を取り戻せるでしょうか。本シンポジウムは、孤立を超えて連帯する未来社会を、多くの参加者とともに展望しようとするものです。

14:00-14:10 開会の挨拶&開催趣旨&総合司会

遠藤薫（日本学術会議連携会員、学習院大学名誉教授）

14:10-15:40 講演

「新しい介入主義に市民社会はどう対峙するか」

町村敬志（日本学術会議連携会員、一橋大学名誉教授）

「〈生〉を包摂する社会へのケアとジェンダーの視点から」

落合 恵美子（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）

「民主主義の二つのかたち—自利から利他へ」

渡邊雅子（日本学術会議連携会員、名古屋大学教授）

「災禍の時代と教育政策」

中村高康（日本学術会議連携会員、東京大学教授）

「災禍の時代と自殺問題」

江頭大蔵（日本学術会議連携会員、広島大学教授）

15:40-16:50 全体討論

討論司会：有田伸（日本学術会議第一部会員、東京大学教授）

園田茂人（日本学術会議連携会員、東京大学教授）

閉会の挨拶：山田真茂留（日本学術会議連携会員、早稲田大学教授）

